

## (様式1) 実施報告書

### 1 補助事業者情報

#### (1) 事業者団体情報

団体名	長野県
-----	-----

(2) 都道府県・政令指定都市との連携（申請者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人又は団体の場合のみ記載）

--

### 2 事業の概要

1. 事業の名称	長野県における地域日本語教育体制整備事業
2. 事業の期間	令和3年4月1日～令和4年2月28日（11か月間）
3. 事業実施前の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>● 県内の外国人住民数は、平成27年から5年連続で増加し、令和元年12月末時点で37,533人（対前年比2,040人増）であった。なお、直近5年間での増加人数は7,744人である。</li><li>● 外国人が4,000人を超える松本市4,111人、上田市4,042人、長野市4,016人を始め、外国人住民数の上位10市村に60%の外国人が在住している。一方で、その他の外国人（40%）については、残りの67市町村に散在している。（31町村においては100人以下）</li><li>● 県内にある地域の日本語教室は、令和2年6月時点で64教室となっている。日本語教室のある市町村は、全体の42%（33市町村）に限られている。</li><li>● 本県は、山間部が多いことや公共交通網の利便性が十分でない地域もあることから、車などの交通手段を持たない外国人にとって、距離が離れた日本語教室へ通うことは難しいと考えられる。そのため、学習意欲のある外国人の中には、日本語の学習機会を十分に得られていない者が存在する可能性がある。</li><li>● 平成30年度に実施した市町村日本語教室担当課及び日本語教室を対象としたアンケート調査結果からは、地域日本語教育を充実させたくても、人材やノウハウの不足が課題として明らかになった。</li><li>● このことから、地域日本語教育に対する取組のハードルが高い市町村への支援が、中小規模市町村の多い本県にとって取組むべき課題の一つとなっていた。</li></ul> <p>(参考：平成30年度に実施したアンケート調査の主な回答)</p> <p>【市町村に対するアンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・日本語学習支援に対する課題（上位3項目） 「日本語教室がないため学べる場がない」 「担い手不足（ボランティア等）」 「日本語教育の専門家がいないもしくは不足」</li><li>・日本語学習支援について県はどのような施策を実施すべきか（上位3項目） 「日本語教室への経済的支援」</li></ul>

「日本語指導スタッフの養成や研修の充実」  
「日本語教室の運営や講座内容を充実させるための支援」

【日本語教室に対するアンケート】

- ・ 教室運営で困っていること（上位3項目）
  - 「日本語指導スタッフが不足している」
  - 「学習者が長続きしない」
  - 「学習者の日本語レベルが違いすぎる」
- ・ 市町村や県、国等行政に望む施策（上位5項目）
  - 「日本語教室への経済的支援」「外国人を雇用している企業の協力を求める」
  - 「日本語教室の運営や講座内容を充実させるための支援」
  - 「日本語学習支援者の養成（一定の教授法等）」「日本語指導教材の配布」
- ・ 教室の主催者区分
  - 「ボランティアグループ 57%」
  - 「市町村（公民館、教育委員会を含む）30%」
  - 「NPO、公益財団法人等 11%」「その他（個人） 2%」

4. 目的

地域日本語教育を担う機関が有機的に連携できる体制づくりを構築するとともに、外国人の日本語学習を地域における多文化共生の実現と活性化につなげることができる「多文化共生の拠点となる日本語教室のモデル」を示すことで、外国人の日本語学習機会の確保と外国人が地域で活躍できる環境づくりの推進を目的としている。

3年目である令和3年度は、多様な機関や者による有機的な連携体制の構築とモデル地域日本語教室（以下、「モデル教室」という。）の創出と普及を一層推進する。

3 事業の実施体制

（1）実施体制（図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターを含めて記載してください。）

事務局については、本県における地域日本語教育事業の担当である、県民文化部文化政策課多文化共生・パスポート室に設置した。

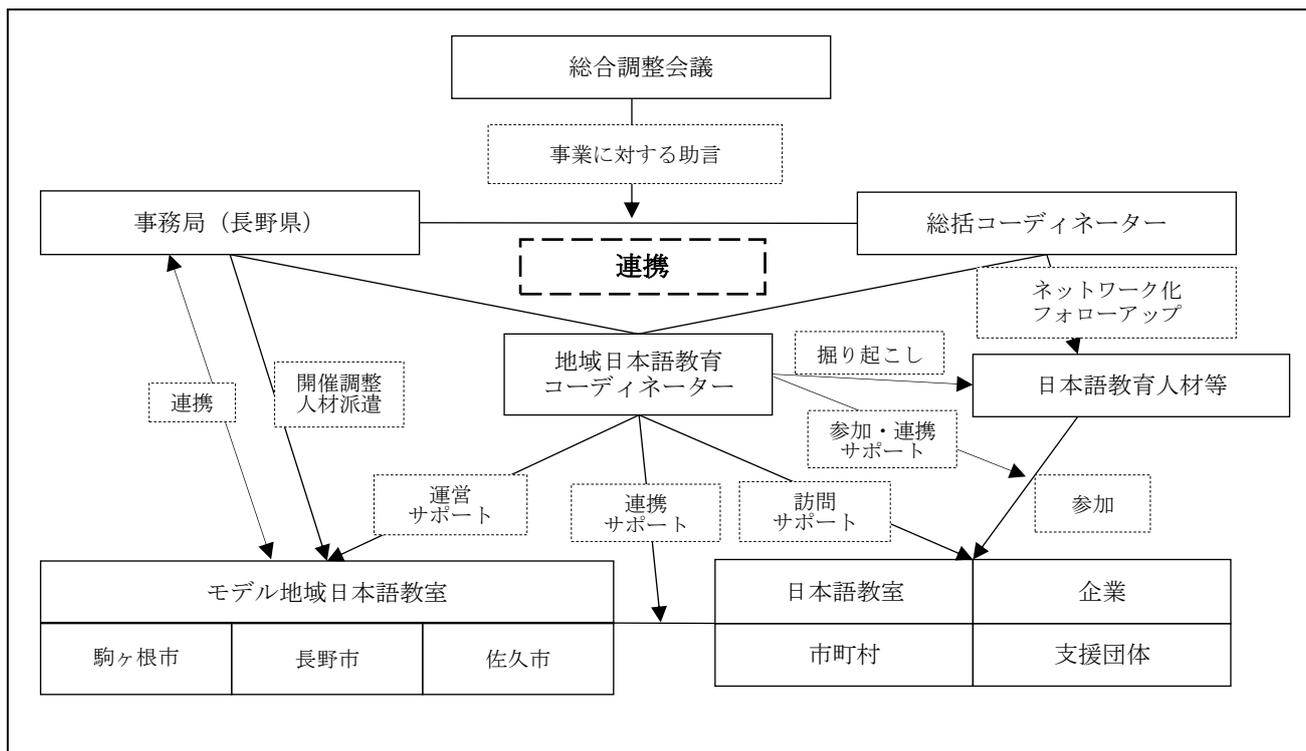
事業の推進を担う者として、総括コーディネーターを1名配置するとともに、地域日本語教育の推進を担う者として、県内4圏域ごとに各地域を担当する地域日本語教育コーディネーターを1名ずつ配置し、事務局と連携して事業を展開した。

また、それぞれの立場から事業内容に係る意見交換を行う役割を担う総合調整会議を設置した。

地域日本語教育の実施に当たっては、本事業で取り組むモデル地域日本語教室の創出と地域に根付き持続可能な教室となるよう、運営する市町村や市民団体と連携し事業を進める体制とした。

なお、事務局が担った主な業務は次のとおりである。

- ・ 総括コーディネーターの選定及び決定に関すること
- ・ 地域日本語教育コーディネーターの公募、選考及び決定に関すること
- ・ 市町村及び関係機関等に対する事業及びコーディネーターの周知に関すること
- ・ コーディネーターに対する活動依頼の調整に関すること
- ・ 市町村に対するコーディネーター活動（訪問やヒアリング等）への協力依頼
- ・ モデル地域日本語教室を実施する自治体の選定及び実施に当たっての調整に関すること
- ・ モデル地域日本語教室に派遣する者の募集及び派遣に関すること



《事業の中核メンバー》

	氏名	所属	職名	役割
1	佐藤 佳子		総括コーディネーター	事業推進
2	堀内 明美	長野県多文化共生・パスポート室	室長	事務局（事業総括）
3	渡辺 恵	〃	課長補佐	事務局（事業総括補助）
4	花岡 沙代	〃	主事	事務局（モデル教室、補助金）
5	辰野 聡	〃	主任	事務局 (コーディネーター配置、総合調整会議)

(2) 域内の市区町村、関連団体等との連携・協力体制

市町村及び日本語教室に、地域日本語教育コーディネーターの訪問及びヒアリング対応に協力いただいた。

また、総括コーディネーターが企画・実施した日本語教室を対象としたネットワーク化イベントに複数の日本語教室関係者に参加いただいた。

モデル地域日本語教室の実施に当たっては、教室運営者である市町村・市民団体と連携した。

4 令和3年度の事業概要

1. 令和3年度の実施目標

外国人の日本語学習を地域における多文化共生の実現と活性化につなげることができる、「日本語教育人材が連携した質の高い日本語教育」と「地域社会との接点」を提供するモデル教室の創出と普及を図る。

県内日本語教育人材等のネットワーク化を進めるとともに、関係機関等が有機的に連携できる体制づくりの構築を推進する。				
2. 実施内容				
【必須項目】				
(取組1) 総合調整会議の設置				
① 構成員				
	氏名 (敬称略)	所属	職名	役割
1	神吉 宇一	武蔵野大学	准教授	県外有識者 (座長)
2	徳井 厚子	信州大学	教授	県内有識者
3	佐藤 友則	信州大学	教授	県内有識者
4	畑田 高志	MANABI 外語学院 長野校	校長	日本語教育機関
5	佐藤 知子	上田市人権男女共生課	課長	モデル期間を終了した自治体
6	荻原 あゆみ	佐久市移住交流課	課長	モデル地域日本語教室運営者 (新規)
7	藤井 佳代	地球人ネットワーク in こまがね		モデル地域日本語教室運営者 (2年目) 外国人支援団体
8	横谷 マリア			外国人住民
② 実施結果				
実施回数	2回			
実施スケジュール	令和3年7月1日 令和4年1月27日			
主な検討項目	第1回 地域日本語教育の体制づくりを進めるに当たって「重要となる視点」「必要な取組」 第2回 「今年度事業の検証」「来年度取組に必要な視点・求められる取組等」			
(取組2-1) 総括コーディネーターの配置				
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本語教師の要件を満たし、文化庁主催の「地域日本語教育コーディネーター研修」受講者かつ県内の地域日本語教育で広く活動する者(1名)を令和元年度から継続して配置した。</li> <li>● 総括コーディネーターは、主に次の業務を担うことで、事務局と協力して事業を推進した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域日本語教育コーディネーターと連携した事業推進を図るため、ミーティングの定期的開催</li> <li>・ 地域日本語教育コーディネーターの活動支援を目的とした活動への同行</li> <li>・ 日本語教育人材等のネットワーク化を目的としたイベントの開催</li> <li>・ 日本語教育人材に対するフォローアップを通じた地域日本語教育における活躍促進</li> </ul> </li> </ul>				
(取組2-2) 地域日本語教育コーディネーターの配置にむけた取組				

地域日本語教育コーディネーターの配置【(○)】 選択した取組に○を記入してください。

地域日本語教育コーディネーターの候補者の育成【( )】

- 日本語教師の要件を満たし、地域日本語教育の推進を担うことのできる者を公募により選考し、県内4地域（東信、北信、中信、南信）に配置した。
- 地域日本語教育コーディネーターは、主に次の業務を担うことで、担当地域の地域日本語教育を推進した。
  - ・ 市町村及び日本語教室等への訪問による現状把握、意識啓発（取組促進）
  - ・ 市町村及び日本語教室等からの地域日本語教育に係る相談対応及び助言
  - ・ モデル教室のコーディネート（シラバス作成、日本語教育人材に対する指導等）
  - ・ 新規日本語教室に向けた啓発及び設置支援
  - ・ モデル教室を中心とした地域内ネットワーク化を図るための関係機関への訪問 等
  - ・ 日本語教育人材等の掘り起こし

(取組2-3) 調査・推進計画策定コーディネーターの配置

該当なし

【重点項目】

(取組3) 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組

- 日本語教育人材等のネットワーク化にむけたイベント開催  
日本語教育人材等のネットワーク化を目的に、「日本語教師」、「日本語交流員」、「地域の日本語教室」のグループごとに、オンラインイベントを開催した。
  1. 日本語教師を対象としたイベント  
【開催日時】 令和4年1月9日（日）  
【テーマ】 地域日本語教育を知ろう～長野県モデル地域日本語教室  
【参加者数】 18名
  2. 日本語交流員を対象としたイベント  
【開催日時】 令和4年2月4日（金）、10日（木）  
【テーマ】 多言語多読を知ろう！  
【参加者数】 計22名
  3. 地域の日本語教室を対象としたイベント  
【開催日時】 令和4年1月16日（日）、23日（日）、2月13日（日）  
【テーマ】 地域日本語教室で使ってみよう・日本語教育の教材紹介  
【参加者数】 計38名
- 地域内の関係機関等のネットワーク化  
モデル地域日本語教室を中心とした地域内のネットワーク化を図るため、地域日本語教育コーディネーターが関係機関への訪問やモデル地域日本語教室を実施する目的や意義の説明等を実施した。

(取組4) 市区町村への意識啓発のための取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域日本語教育コーディネーターの訪問 地域日本語教育コーディネーターが市町村を訪問し、地域日本語教育の現状の聞き取りや取組に関する意見交換を通じて、意識啓発を図った。</li> <li>● 多文化共生に係る研修会の開催 市町村の地域日本語教育（多文化共生）担当者等を対象に、「なぜ多文化共生が必要なのか」について発信するための講演会を開催することで、市町村に対する意識啓発を図った。 ※地域日本語教育の前提として、多文化共生に向けた取組の重要性を訴求する必要があることから、今年度は多文化共生をテーマとした講演会を実施した。</li> </ul>			
（取組５）日本語教育人材に対する研修（研修受講者数（実人数）：一人）			
該当なし			
（取組６）地域日本語教育の実施取り組んだものに○			
<p style="text-align: center;">【○】 都道府県・政令指定都市が主催する地域日本語教育</p> <p style="text-align: center;">【 】 日本語教育実施機関団体等への地域日本語教育</p>			
実施箇所数	3か所	受講者数 (実人数)	59人
活動1	<p>【名称】 多文化共生の拠点となるモデル地域日本語教室</p> <p>【目標】 「日本語教育人材が連携した質の高い日本語教育」及び「地域社会との接点」を提供できる、外国人の日本語学習が地域の多文化共生の実現と活性化につながる多文化共生の拠点となる日本語教室のモデルを示す。</p> <p>1. 駒ヶ根市</p> <p>【運営者】 地球人ネットワーク in こまがね</p> <p>【授業回数】 15回</p> <p>【開催期間】 令和3年8月から令和4年2月</p> <p>【開催曜日及び時間】 土曜日 午前10時から11時30分</p> <p>【受講者数】 26人（延べ128名）</p> <p>【開催場所】 駒ヶ根市老人福祉施設ふれあいセンター (一部授業については、オンラインによる開催)</p> <p>【派遣した日本語教師】 2名（延べ17名（うち会議2名））</p> <p>【派遣した日本語交流員】 5名（延べ46名（うち会議3名））</p> <p>【関係機関との連携】 地球人ネットワーク in こまがね、駒ヶ根市</p> <p>【関係機関との連携内容】 モデル地域日本語教室の運営・実施</p> <p>2. 長野市</p> <p>【運営者】 長野市</p> <p>【授業回数】 13回</p> <p>【開催期間】 令和3年9月から12月</p>		

	<p>【開催曜日及び時間】土曜日 午後2時から4時</p> <p>【受講者数】14名（延べ117名）</p> <p>【開催場所】オンライン</p> <p>【派遣した日本語教師】3名（延べ19名（うち会議6名））</p> <p>【派遣した日本語交流員】8名（延べ72名（うち会議8名））</p> <p>【関係機関との連携】長野市</p> <p>【関係機関との連携内容】モデル地域日本語教室の運営・実施</p> <p>3. 佐久市</p> <p>【運営者】佐久市</p> <p>【授業回数】6回</p> <p>【開催期間】令和3年10月から12月</p> <p>【開催曜日及び時間】土曜日 午前10時から12時</p> <p>【受講者数】19人（延べ59名）</p> <p>【開催場所】佐久平交流センター</p> <p>【派遣した日本語教師】2名（延べ17名（うち会議11名））</p> <p>【派遣した日本語交流員】14名（延べ55名（うち会議28名））</p> <p>【関係機関との連携】佐久市</p> <p>【関係機関との連携内容】モデル地域日本語教室の運営・実施</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p>
その他の取組（取組7～14のうち、取り組んだものについて記載）	
該当なし	
2-2. 市区町村の日本語教育の取組への支援	
（取組15）市区町村を支援して実施する日本語教育	
該当なし	
（取組16）取組15以外の日本語教育を行う団体を支援して実施する日本語教育	

モデル期間を終了した NPO 法人中信多文化共生ネットワークが実施する「日本語教師と日本語交流員が連携した日本語教育」に対して補助を行った。

【対象期間】 令和 3 年 12 月から令和 4 年 2 月末まで

【補助事業】「キーパーソン育成のための日本語教室」実施事業

【事業概要】

(目標)

松本市やその周辺地域において、外国人住民と地域をつなげるためキーパーソンとしての役割を担うことができる程度の日本語能力を有した外国人住民を育成する。

(取組内容)

松本市やその周辺に暮らす外国人住民のうち、希望する者を対象に日本語教師や日本語交流員とのコミュニケーションを通じた日本語学習と相互理解の場をつくる。また、学習内容に日本の文化・制度や行政からの情報等も取り入れる。

【実施形態】 オンライン (Zoom)

【受講者数】 6 名 (延 38 名)

【活動した日本語教師】 1 名 (延 7 名)

【活動した日本語交流員】 4 名 (延 14 名)

(参考：補助金の対象経費及び補助要件)

【対象経費】 日本語教師及び日本語交流員に対する謝金

【補助要件】 日本語教師及び日本語交流員が連携した授業実施を行うこと

### 3. 効果

#### (1) 令和 3 年度の実施目標に対する評価

##### ①令和 3 年度の実施目標 (年度当初に設定した目標を再掲)

外国人の日本語学習を地域における多文化共生の実現と活性化につなげることができる、「日本語教育人材が連携した質の高い日本語教育」と「地域社会との接点」を提供するモデル教室の創出と普及を図る。

県内日本語教育人材等のネットワーク化を進めるとともに、関係機関等が有機的に連携できる体制づくりの構築を推進する。

##### ②達成状況

令和 3 年度は新たに 2 つのモデル教室を創出することができた。

また、新たに長野県市町村地域日本語教育補助金創設し、モデル期間を終了した 1 団体に交付することで、自走支援を通じた普及を図ることができた。

日本語教育人材等のネットワーク化を進めるため、日本語教師、日本語交流員、日本語教室のグループごとにイベントを開催することができた。一方で、より多様な関係機関と有機的に連携した体制づくりについては、一層取組を加速する必要がある。

#### (2) 個別の取組に対する評価

##### ①定量評価

・総合調整会議：前年度 (2) 回 当年度 (2) 回

- ・総括コーディネーター配置数：前年度（1）人 当年度（1）人
- ・地域日本語教育コーディネーター配置数：前年度（4）人※うち1人は総括が兼務 当年度（4）人
- ・実施した日本語教育人材に対する研修：（一）回
- ・実施した日本語教室：前年度（50）回（3箇所） 当年度（34）回（3箇所）

①-2 実施計画書において設定した目標に対する定量評価

○モデル教室実施か所数：3か所

実施か所数は3か所となり、目標を達成した。

○モデル教室受講者数：45人（延べ900人：15人/か所×3か所×20回）

モデル教室の受講者数は59人となり、目標を達成した。

一方、延べ人数については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により開催回数が計画を下回ったため未達成であった。

○日本語教育人材等ネットワークミーティング参加者数：60人

参加者数は78人となり、目標を達成した。

②定性評価

(i) 連携機関の広がりについて

事業実施前、地域日本語教育に対する取組みにおいては、市町村や地域の日本語教室等と連携した取組は多くなく、県単独での取組が主体であった。

本事業では、これまでの県単独による取組みのみでなく、市町村や地域の日本語教室等の様々な機関と共に地域日本語教育の充実を図る形で事業を進めているため、連携する機関や者が事業を進めるにつれて広がっている。

本年度については、モデル教室の取組を通じて、新たに、2市と連携した取組を進めているところである。

また、これまで連携の機会が少なかった日本語教育機関にも総合調整会議に参加いただいた。

(ii) 新たな連携機関と連携した内容

モデル地域日本語教室の在り方や方向性の検討、関係団体への説明、運営、持続可能な形の検討等  
本事業の取組に関する意見交換（総合調整会議）

(iii) どのような体制を構築できたか

モデル地域日本語教室の円滑な運営を行うことのできる体制を構築できた。

本事業における取組についてより多様な者による意見交換できる場を設定できた。

(iv) 事業実施に当たっての周辺自治体や域内の関係者等へ周知・広報及び事業成果の地域への発信について

コーディネーター配置についての周知・広報は、県ホームページの活用や通知により、市町村の地域日本語教育（多文化共生）を担当する部署や県内の国際交流団体等に対して行った。

また、地域日本語教育コーディネーターが地域日本語教室へ訪問することで、事業の周知、コーディネーター配置の意義を発信した。コーディネーターの訪問による周知・広報が、顔の見える関係になることから最も効果があったと捉えている。

モデル地域日本語教室の受講者募集については、運営者が様々な広報媒体を活用したことで、多くの学習希望者からの応募があった。

事業成果の発信については、現在、モデル地域日本語教室の取組を成果としてまとめているところであり、今後、県内市町村に向けて会議等を通じて発信していく。

#### 4. 課題と今後の展望

##### (1) 課題と困難な状況への対応方法

事業開始前までに明らかになっていた課題に対応するため、県内4圏域ごとに、地域日本語教育コーディネーターとして配置することにより、専門性の高い相談事例（ノウハウの提供）に対応する体制を整備した。

また、日本語教育の高い専門性を有し、地域日本語教育に精通した人材を総括コーディネーターとして配置することにより、地域日本語教育コーディネーターの活動を支援、調整でき、市町村や地域の日本語教室に対する助言や支援を行うことができ、事業全体の推進を図ることができた。

距離の課題については、事業を通じて長野市を中心とした取組としてオンラインによる広域での日本語教育の実施が展開されるなど、ICTの活用によるアプローチもしているところである。

事業の実施において生じた課題としては、モデル地域日本語教室を創出するに当たって、地域の既存の様々な資源（地域の日本語教室や、外国人支援・共生に取り組む団体等）との連携や理解を得ること等が挙げられる。

この課題に対しては、現段階で明確な解決策が得られている状況ではないが、総括コーディネーターや地域日本語教育コーディネーターを中心にモデル教室の取組の意義や目的を説明したり、積極的に見学を受け入れたりする等の取組を進め、それぞれが担う役割を明確化するなどを通じて、有機的な連携体制の形を模索しているところである。

##### (2) 今後の展望

これまでの取組を通じて、それぞれの地域や市町村、地域の日本語教室ごとに地域日本語教育を含めた様々な状況が異なっていることから、現状や課題を明確化し、取組をオーダーメイドしていく必要がある。

このため、それぞれの地域で必要な地域日本語教育の体制について検討するため、地域会議の設置を見据えた取組をしていく。

**【参考写真一覧】**

取組番号	写真名	
6	モデル教室（駒ヶ根市）	
 <p data-bbox="373 725 1203 761">道案内の方法を学ぶ学習者（中央）と支援する日本語交流員（左）</p>		
6	モデル教室（佐久市）	
 <p data-bbox="301 1209 1291 1245">文化財施設で施設職員（左）から日本語で説明を受ける学習者と日本語交流員</p>		
6	モデル教室（佐久市）	
 <p data-bbox="248 1688 1331 1724">ごみの分別について話し合う学習者（左2番目、右2番目）と日本語交流員（左、右）</p>		

**【参考資料一覧】**

取組番号	資料名	NEWS 掲載
3	日本語教育人材等ネットワークイベント実績	
6	モデル教室シラバス	○